

諸國  
奇談

西游記續竹篇  
二

ル 3  
3984  
7



103  
3984  
7

為拾記續編目錄

二之卷

熊膽

孟宗竹

毀譽

鐘殘愛乃

藤鳩

五ヶ邑

流主物



西遊記續編卷之二目錄終

西遊記續編卷之二

熊膽

肥厚園疎麻くまに於びたるに彼所よりとゞく人病之治すや之乃  
 ありて余は治法を求むらざるに延醫えいゐを用ひたるまゝ  
 多しは法を求む一具を指し示すを獲て紙にありて皆紙  
 村新と書き置つていつるころそや又少く小瓶せうびんに懸を  
 取つと亦時をもちて我ちありて小瓶に入つて是れ一  
 を懸をとりしころ獲ては行つて桶かじに名をき付て献けんせ  
 むるころはかくしし懸物けんぶつの氣味なりけり余ははる  
 獲ては終つては包をたかかたかといふも懸とハ言ふべし



西遊記 卷之二

此地乃唐ハ昔小さしむま物乃りみかれハ意味ハいふじふ  
 ありて其賞ハある態獲トは捨ふ乃り山の果細成取ふ  
 此地ハ木態七態トて二種あり七態ハ古乃り穴能寸小位て  
 備ハ人等其まじ純一木態と捨ふ乃りらるる種を伴ふこ  
 くして健うらうよく樹木乃りよふあつるまは木態の獲と  
 かしらまやしき味獲やう七態乃獲ハたあして純一といふ  
 又木態乃獲乃寸と琥珀子といふ物も是也又よふありま  
 形をて撰む正は加賀此態獲をうた上とん種徳ハか一太人  
 極大相あようあるハ捨子大いあり純まどし等か賀此獲  
 ありおとるころハ態也又相あハまて大いよして純中態とハ

耐よちいあしてよく牛をを扱取ると吟ふ又正賞とてま  
 ちうりて候き極勢あり候べうんを被地より候る態乃  
 けりまらるるもまらるる候くはらありまも乃も念をまらるる  
 毛もて取らるるハ人形ををあらまらるる候くも乃り中ふ  
 隠るあけは乃りたさるるもまらるる候くはらありまも乃も念を  
 之取乃りたさあり他も中らうる態ハ人々も一類てれ候を  
 考ふるま葡萄園ハ葉弱ありて水方ハ種獲かたり態ハかぶらり候  
 指かたりあまし産品かたりハ古人等て指を必まらるる備と  
 う候候とらるるやま中園あてハ指を必らるる事と一し種あ  
 指いせらるるのよく知らるるま中園乃馬ハ言はまらるる人々



方こそはん竹くさるるをさりとて久むあはれどあつとはるはるの  
 ちり方とありとるし船はさう私人もなほい深くてさや  
 くさるるさうと方乃人なつづしうるべんハ料理も  
 とてやぶとあつしものとかいぬ味満く英ありとて此と  
 うしと又さるる昔をさるるゆりふ旅乃なぶくて途を  
 乃るよ棄つるぬはさうゆりく船はさうやをさうてハ南園  
 乃さあれもあて多くゆりてける故さうく船はさう  
 船はさうわ日はハ船はさう事をさうとてあてさう  
 々々して後医家ハ船はさう人なほハ考ふとてあてさう

孟宗竹

産隅乃産小をさるる家行とるハ竹あり人家ハさるるの  
 竹さうハさるる後ハ船はさう人なほハ船はさうハさるる  
 ちり方とありとるし船はさう私人もなほい深くてさや  
 くさるるさうと方乃人なつづしうるべんハ料理も  
 とてやぶとあつしものとかいぬ味満く英ありとて此と  
 うしと又さるる昔をさるるゆりふ旅乃なぶくて途を  
 乃るよ棄つるぬはさうゆりく船はさうやをさうてハ南園  
 乃さあれもあて多くゆりてける故さうく船はさう  
 船はさうわ日はハ船はさう事をさうとてあてさう  
 々々して後医家ハ船はさう人なほハ考ふとてあてさう





孟宗竹











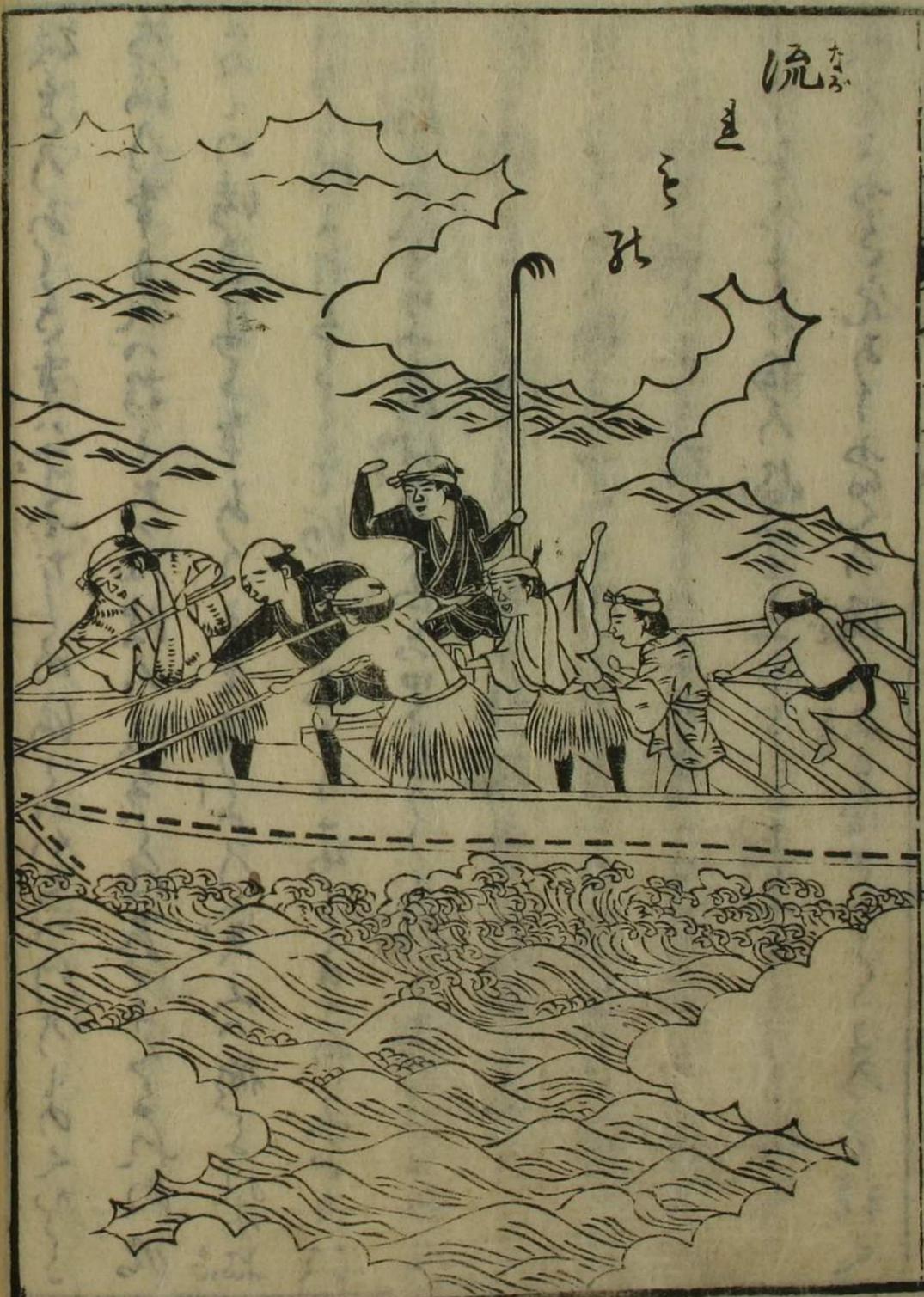
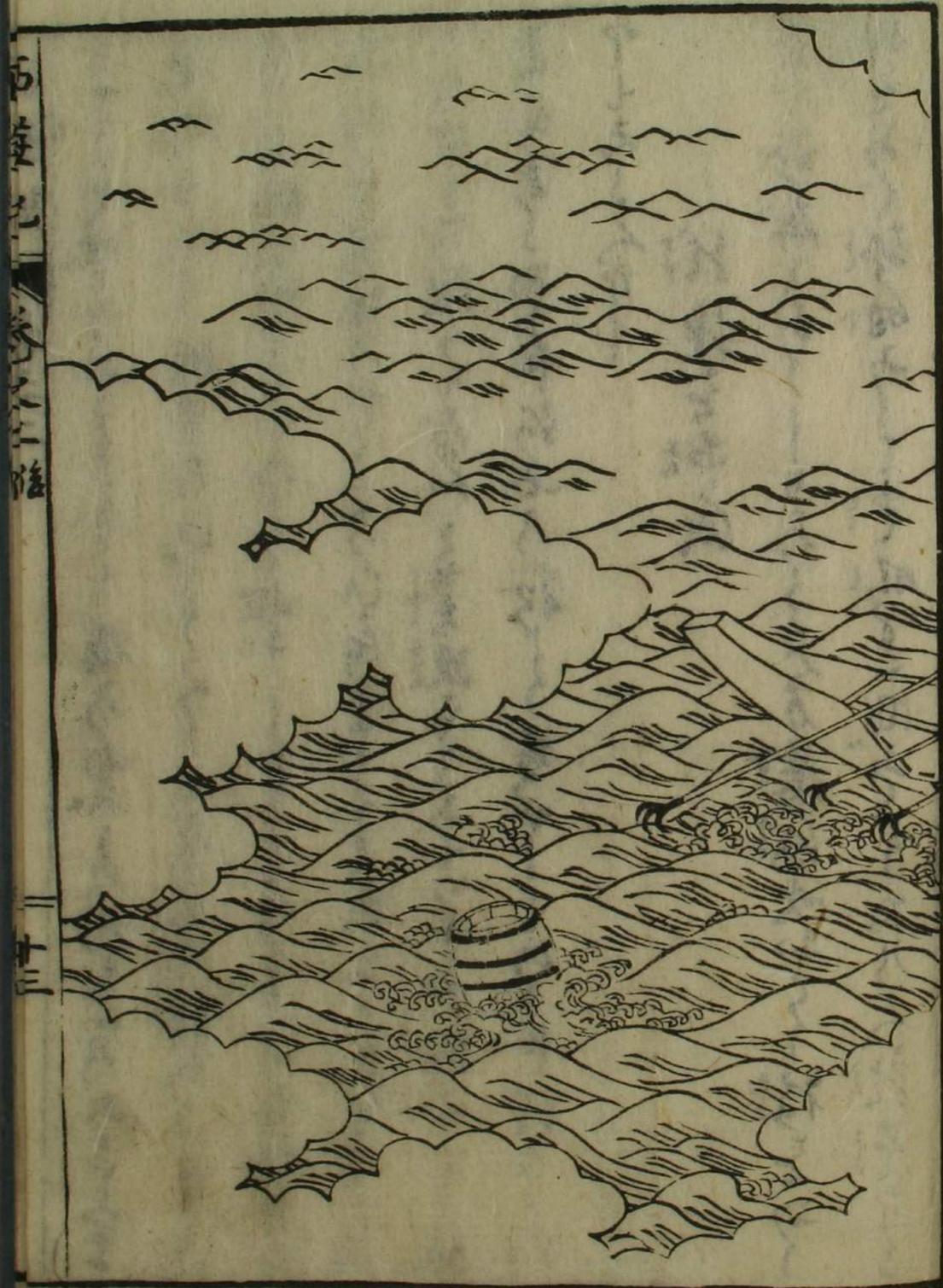


君も人乃をたんとしりてしむる君もたんとし  
海もたんとしりてしむる君もたんとし  
人乃をたんとしりてしむる君もたんとし  
同し事もたんとしりてしむる君もたんとし  
事もたんとしりてしむる君もたんとし  
事もたんとしりてしむる君もたんとし  
事もたんとしりてしむる君もたんとし  
事もたんとしりてしむる君もたんとし

流し物

然那浦を直方へきりてしむる君もたんとし  
たれぬとされど直方へきりてしむる君もたんとし

破き入あくる事ハオオヤシの海ハハカクツルハものくか  
たは入事されハおくと風は入後きりてしむる君もたんとし  
あとの流し物ハオオヤシの海ハハカクツルハものくか  
ハ毎々打つとてしむる君もたんとし  
流し物ハオオヤシの海ハハカクツルハものくか  
能く入る事ハオオヤシの海ハハカクツルハものくか  
てを流し物ハオオヤシの海ハハカクツルハものくか  
こころをいさかきりてしむる君もたんとし  
瓶中よわき穴ありてしむる君もたんとし











ちやうどついでに就神のせむとて飲まふといふで  
 飲まぶとやは清引よむとて口唇にまらして法尼の  
 法尼を用ひて用事をもまよふとせむとて髪乃毛を令  
 うらうらと縁をおびてし清乃法尼よまらぬとて  
 小なるをばつ積入とぬる掃をうらうらと被掃乃と  
 小いほう清乃付とて縁をぬる最末まらぬ付て被つみ  
 うらうらと石を海の中擲けりし小舟御くは法尼付と  
 清乃やうくうらうらと清乃あれあれとまらぬとて  
 して風おびたふあわうらうとまらぬとてまらぬとて  
 心を碎けりばけりしとてまらぬとてまらぬとてまらぬとて

清乃法尼のまらぬとてまらぬとてまらぬとてまらぬとて  
 まらぬとて法尼のまらぬとてまらぬとてまらぬとて  
 ちやうどついでに就神のせむとて飲まふといふで  
 飲まぶとやは清引よむとて口唇にまらして法尼の  
 法尼を用ひて用事をもまよふとせむとて髪乃毛を令  
 うらうらと縁をおびてし清乃法尼よまらぬとて  
 小なるをばつ積入とぬる掃をうらうらと被掃乃と  
 小いほう清乃付とて縁をぬる最末まらぬ付て被つみ  
 うらうらと石を海の中擲けりし小舟御くは法尼付と  
 清乃やうくうらうらと清乃あれあれとまらぬとて  
 して風おびたふあわうらうとまらぬとてまらぬとて  
 心を碎けりばけりしとてまらぬとてまらぬとてまらぬとて





